

国立大学法人愛媛大学及び国立大学法人高知大学
共同入札監視委員会定例会議議事概要

開催日及び場所	令和6年9月2日（月）14：00～16：00 愛媛大学本部第3会議室（愛媛大学本部管理棟1階東）	
委 員	委員長 松島 学（大学教授） 委 員 安藤 潔（弁護士） 委 員 木本 敦（公認会計士）	
審議対象期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日	
抽出案件（合計）	4件	（備考） 今回の審議対象期間においては、再苦情の申立て及び同審議依頼はなし。 各大学の審議対象案件についての概要を説明したのちに、抽出案件の個別審議について各発注機関の担当者から説明を行い、質問に対して回答した。
工 事（小計）	4件	
一般競争入札 （政府調達に対する指定工事）	0件	
一般競争入札 （上記工事を除く）	4件	
工事希望型競争入札	0件	
通常指名競争入札	0件	
随 意 契 約	0件	
設計・コンサルティング業務（合計）	0件	
簡易公募型プロポーザル方式（拡大）	0件	
委員からの意見・質問， それに対する回答等	意見・質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申 又は勧告の内容	特になし	

質 問	回 答
I. 愛媛大学 1. 国立大学法人愛媛大学において発注した建設工事及び設計・コンサルティング業務について (愛媛大学から報告・説明) ・愛媛大学の低入札の案件における落札率は例年どおりか。 2. 建設工事及び設計・コンサルティング業務における抽出案件の審議 (1) 一般競争入札方式 【愛媛大学（医病）附属病院本館等照明設備改修工事】 ・本件では、入札回数が3回となっているが、入札金額が予定価格と乖離している理由はなにか。照明器具の取り替え工事という性質上、事前にメーカーに見積をとるため、交換部品について双方の見積金額に差異が生まれるとは考えにくい。 ・再度入札をする場合に次の開札まで、どのくらいの時間・期間を設けるのか。 ・資料を見ると、3回目の入札において金額の下げ幅が大きくなっているが、これは金額の歩み寄りがあったのか？	・例年どおりの値である。 ・交換部品の単価による違いではなく、本件は工事対象が附属病院であり、時間的制約を受けることが予想されるため、入札業者が労務費を高く積算したことによる金額差額であると考えられる。 ・再度入札の場合には原則、次の開札まで30分ほど時間を設けるようにしている。 ・業者に対し、予定価格等の金額に係る情報の提供は一切行っていない。あくまで応札業者が考えての入札であった。

・近年では国土交通省の工事でも不落・不調の案件が目立ってきている。本件でも不落・不調の可能性があったが、防止策はないだろうか。 (2) 一般競争入札方式 【愛媛大学（樽味）農学部会館改修その他工事】 ・本件では、入札参加業者数が5者おり、価格の競争が活発に行われているように見受けられるが、低入札になるほどの価格競争が行われた理由はなにか。 ・別紙4において、競争参加資格等審査委員会はメール審議にて開催したと記載があるが、メール審議であっても積極的な議論はなされているか。	・不調・不落の防止策については、国土交通省及び文部科学省の動向を見守り、今後検討を行うこととする。 ・参考資料「一般競争入札日程表 総合評価（実績評価型）」で示したように、本件は年度当初という早期に発注・開札手続きを行っている。業者としては早期に契約を完了し、利益を確保したいという思いがあり、結果として低入札に至ったことが想定される。 ・競争参加資格等審査委員会については、原則メール会議を主としている。ただし、競争参加条件等に異議が生じた場合には、委員が参集し議論を行う体制をとっている。
II. 高知大学 1. 国立大学法人高知大学において発注した建設工事及び設計・コンサルティング業務について (高知大学から報告・説明) ・低入札が多く見受けられるが、高知県という地域事情のため、労務費及び見積の単価が安いことによるものか。	・積算は、入札時期直近の物価資料、労務費、見積書を基に作成しており、全体的に事業が少ない等、地域事情によるものと考えられる。

2. 高知大学（小津他）附属小学校等屋上防水改修工事（一般競争入札方式）（高知大学から報告・説明） ・申請者数7者となっているが、7者も集まった要因は何か。 ・多数の申請者があり、低入札でも応札したい状況となったのか。 ・防水工事は、個人的に手間の掛る仕事と認識しているが、低入札で応札してくれたのか。 ・本案件の申請者は、県外が多いのか。	・入札時期が6～7月頃は、例年多くの申請がある状況である。 ・本案件は「建築一式工事」ではなく「防水工事」と専門性の高い条件を選定しており、より多くの申請があり競争が働いたと考えられる。 ・手間が掛る工事ではあるが、今回落札した県外業者に対し、低入札調査を実施した結果、「施工実績が欲しかったこと」、「自社施工のため経費削減が可能となったこと」等により、工事費の削減が図れたためであった。 ・県外業者が4者、県内業者が3者。
3. 高知大学（物部）淡水魚飼育実験棟解体工事（一般競争入札方式）（高知大学から報告・説明） ・取り壊し工事を請け負っている会社が愛媛県では数社しかいない気がするが、高知県ではどうか。また、少数の業者しかいない状況での入札を行う難しさを聞きたい。	・全国的に見ても業者が徐々に増えている状況で、全国平均の金額で入札しても落札率97%以上で応札できているのが現状である。 ・予定価格の作成は、見積による割合が高い積算方法となっており、落札率も高くなったと考えられる。